

# 「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

アメリカ カンザスシティ日本語補習授業校 校長 古宮 弘子

- 本校ではこのような対策をしながら再開の日を待っている状態。
- 趣旨は、子供達の学習の遅れを避けるだけでなく、このコロナ禍が通り過ぎた後の事に集中し、不安を無くし希望を持たせるという事。
- 土曜日の授業：
  - 平常の授業時間を土曜日zoomでオンライン授業で実施している。
  - 「終わりの会」で全員でzoomで集まり顔を合わせ、今月の目標や本の紹介、校歌を歌っている。
- 危機をチャンスに：
  - この新型コロナ禍に関わるプロジェクトのコンテストを企画し、児童生徒は、臨時休校期間を利用して、プロジェクトに精を出している。（再開されたら展示会をし、コンテストがある。審査員は総領事）

- 内容は、

1. 研究発表：新型コロナウイルスについて、またはその対策案についての調査や研究を視覚資料と共にまとめたレポート。  
(作文用紙またはコピー用紙3ページから5ページ、または、3つ折りプレゼンテーション用ボード一枚)
2. 作文・詩・俳句：パンデミック休校中に発生した自分の身の回りで起きた体験や感想を作文や詩や俳句にする。  
(作文用紙1ページから4ページ)
3. ポスター：新型コロナウイルス感染予防方法を絵やイラストで伝えるポスター (用紙サイズは、11 in. x 17 in.)  
(例) 手洗い、自宅滞在、マスク、「三つの密」等。
4. 感染防止のために作った手作りマスク (自宅滞在命令の中、自宅で見つけた素材で作成したデザインの工夫) と作り方の説明

- 水曜日の朝みんな集まれ会「みんな元気でいられますように」：
  - 毎週水曜日の朝、zoomで校長が会を開き、希望者が集まり色々なテーマで話し合ったり、写真を共有したり、体を動かすために、応援ソングのダンスもする。みんなの苦手な朝9時だが在学生の半分が参加している。
- マスコットを考えよう：
  - こちらも、補習校閉鎖中のプロジェクト。秋の運動会に向けて応援ダンス練習の他に、マスコットを決めて、楽しみな運動会への意欲を掻き立てる。